

# 1. 令和5年度にぎわい交流館運営実績について

## (1) 会議室等利用実績について

本年度は、8月15日に台風による閉館が1日あり、期間中の開館日数は357日でした。

4月にコロナ禍で続いてきた感染症対策ルールを緩和し、さらに5月8日からは新型コロナウイルス感染症の法律上の位置付けが5類へ移行されたことから、日進市新型コロナウイルス感染症対策本部の方針に従い、感染症対策ルールを廃止しました。

また、利用時間帯について改めて条例・規則に沿った運用ができるように整理し、「1時間単位の利用」「夜間利用の申請は1週間前まで」という案内を年度を通して周知しました。

コロナ禍になってから設定したルールのうち、先行予約方法の変更・会議室の続き間利用については継続をしました。3か月前の初日に先行予約をして希望が重なった場合に抽選するという方法は公平性が保たれるようになり定着しました。また、会議室AB・和室EFをそれぞれ続き間として利用していただくことで、部屋同士の音漏れ問題にも対応しました。しかし、人数の利用増加や換気の習慣で部屋が空いていることも多く、登録団体アンケートでは音漏れについての意見も多く見られました。

会議室の利用人数は、前年度比で5.4%増となりました。定員はコロナ禍以前に戻しましたが、緩やかな増加傾向はあるものの、依然として6割程度の利用人数にとどまっています。利用件数（コマ数）は、今年度からコマ割りが午前午後夜間それぞれ4件ずつというカウント方法に変わったため、件数としては56%増と大幅な増加となりました。カウント方法の変更で単純な比較はできませんが、日数ベースの午後の利用率が若干下がったものの、他の利用率はいずれも増加しており、無駄のない利用をしていただいていると考えます。

なお、著作権の関係で従来のランチコンサートを行うことはできなくなりましたが、音楽の復活を望む声に応え、サロンでのUSEN導入や、にぎわい文化部発表会でのステージ発表を開催しました。

会議室の利用時間区分と定員（コロナ禍以降は感染症対策ルールとして設定）

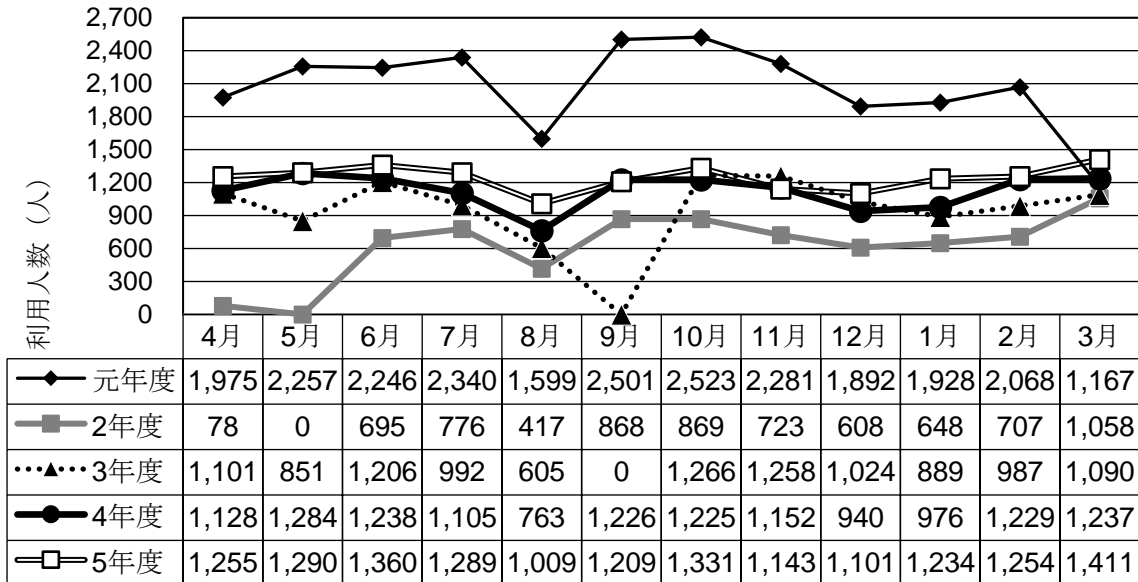
	利用時間区分（コマ）	会議室定員	その他
コロナ禍以前	区分なし	会議室ABC：51名 会議室D：15名 和室：16名	
令和2年6月～12月	午前 ①9：00～10：30 ②11：00～12：30 午後 ③13：30～15：00 ④15：30～17：00 夜間 ⑤18：30～20：00 ⑥20：30～22：00	会議室ABC：15名 会議室D：5名 和室：4名	※まん延防止等重点措置等を受けて、令和3年度まで一部の期間で開館時間を短縮しました。
令和3年1月～12月		会議室ABC：25名 会議室D：8名 和室：8名	
令和4年1月～	午前 ①8：30～10：00 ②10：00～11：30 ③11：30～13：00 午後 ④13：00～14：30 ⑤14：30～16：00 ⑥16：00～17：30 夜間 ⑦17：30～19：00 ⑧19：00～20：30 ⑨20：30～22：00	会議室ABC：34名 （※AB22名・C12名） 会議室D：10名 和室：8名 ※令和5年1月からAB・C分割利用が可能となった	連続利用：3コマ（4時間半） 特例利用で以下利用可 ・講義形式での利用で定員を上限
令和5年1月～			特例利用で以下利用可 ・講義形式での利用で定員を上限 ・部屋間の往来 ・同室の1日4コマ以上の利用 ・会議室内での飲食
令和5年3月13日～			特例利用撤廃 ・飲食時パーティー利用又は適切な距離の確保の案内
令和5年4月1日～	午前 ①9：00～10：00 ②10：00～11：00 ③11：00～12：00 ④12：00～13：00 午後 ⑤13：00～14：00 ⑥14：00～15：00 ⑦15：00～16：00 ⑧16：00～17：00 夜間 ⑨17：30～18：30 ⑩18：30～19：30 ⑪19：30～20：30 ⑫20：30～21：30	会議室ABC：51名 （AB33名・C18名） 会議室D：15名 和室：16名	5類へ移行となり、感染症対策について撤廃

会議室等の利用状況

	R5 年度	R4 年度	R1 年度
開館日数	357 日	357 日	357 日
会議室利用人数	14,886 人	13,503 人	24,777 人
利用件数 (コマ数)	5,179 件	3,319 件	2,006 件
利用率 (設定されたコマ数 (時間帯) に対して利用があったコマ数の割合)	午前 50.2%	午前 44.2%	設定なし
	午後 52.9%	午後 46.0%	
	夜間 17.8%	夜間 13.1%	
利用率 (1 件以上の利用があった割合)	午前 91.6%	午前 90.8%	午前 91.3 %
	午後 93.6%	午後 94.1%	午後 95.5 %
	夜間 61.6%	夜間 56.0%	夜間 78.2 %
会議室利用団体数	139 団体	143 団体	167 団体
1 件 (1 コマ) あたりの利用人数	2.9 人	4.7 人	12.4 人
印刷機の利用件数	334 件	420 件	556 件

※令和元年度の利用件数はコマ数ではなく、利用時間数に関わらず 1 件で計上しています。

会議室利用人数の推移



会議室ごとの利用人数・件数

		会議室 ABC	会議室 AB	会議室 C	会議室 D	和室	合計
利用人数	R5 年度	8,901 人	8,407 人	8,434 人	3,797 人	2,188 人	14,886 人
	R4 年度	8,446 人			3,495 人	1,562 人	13,503 人
	前年比	105.4%			108.6%	140.1%	110.2%
	R1 年度	13955 人			6298 人	4524 人	24777 人
	R1 年度比	63.8%			60.3%	48.4%	60.1%
利用件数	R5 年度	1,991 件	1,832 件	1,863 件	1,929 件	1,259 件	5,179 件
	R4 年度	1445 件			1192 件	682 件	3319 件
	前年比	137.8%			161.8%	184.6%	156.0%
	R1 年度	786 件			719 件	501 件	2006 件
	R1 年度比	253.3%			268.3%	251.3%	258.2%

会議室の利用率（日数ベース）

利用率	会議室 ABC			会議室 AB			会議室 C			会議室 D			和室		
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R5 年度	70.9 %	77.9 %	41.2 %	66.1 %	72.5 %	37.0 %	68.1 %	71.1 %	39.8 %	73.9 %	79.6 %	37.5 %	55.7 %	57.1 %	10.9 %
R4 年度	80.7 %	77.9 %	36.7 %	/	/	/	/	/	/	68.1 %	79.6 %	28.6 %	46.2 %	47.1 %	6.4 %
R1 年度	75.1 %	86.6 %	59.4 %	/	/	/	/	/	/	72.0 %	86.6 %	52.4 %	64.7 %	74.2 %	37.8 %

※1件以上の利用があった場合に計上。

会議室の利用率（コマ数ベース）

利用率	会議室 ABC			会議室 AB			会議室 C			会議室 D			和室		
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R5 年度	53.6 %	60.3 %	25.6 %	49.7 %	55.7 %	22.9 %	51.3 %	54.7 %	24.5 %	54.5 %	58.6 %	22.0 %	42.5 %	39.7 %	6.0 %
R4 年度	57.3 %	56.6 %	21.0 %	/	/	/	/	/	/	44.4 %	52.1 %	14.8 %	30.9 %	29.2 %	3.5 %
R1 年度	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

※利用時間の区分に対するコマ数を計上。2023年4月からの区分は、午前 ①9:00～10:00 ②10:00～11:00 ③11:00～12:00 ④12:00～13:00、午後 ⑤13:00～14:00 ⑥14:00～15:00 ⑦15:00～16:00 ⑧16:00～17:00、夜間 ⑨17:30～18:30 ⑩18:30～19:30 ⑪19:30～20:30 ⑫20:30～21:30  
※R1年度はコマ区分がないため記載せず。※R1・R4年度は会議室 AB・C の区分けではないため記載せず。

## (2) 市民サロン運営実績について

ワンデイシェフによるランチ提供は、10月に1団体増えて5団体となりました。1日あたりの平均食数は32.2食と、ランチを再開した前年より増加しました。新規団体の花菜豆（はなまめ）は50食を超える予約が入り、コロナ禍前のような活気を取り戻したとを感じる日も出てきました。しかし、団体都合での休止も多く、稼働日がほとんどないため、市民の期待に応えられていないのが現状でした。しかし3月からは、福祉事業者（マーケットを利用していたななサポの支援先であるセブンスファクトリー）から申し出のあったにぎわい交流館駐車場でのキッチンカー販売を特別利用として許可しました。ワンデイシェフの無い日に行っていただくことで、にぎわい交流館にいつ来ても何か食べるものがあるという状態を徐々に作っていくことができたと考えます。コロナ禍前に実施していた「木祖村ランチフェア」「あったかだんらん鍋フェア」は稼働日が少ないため開催できませんでした。また、11月に保健所からの指導が入り、子ども食堂以外のワンデイシェフはレンタルキッチンという扱いになり、個別に営業許可の取得をしてもらう必要が生じました。この課題がきっかけでやむを得ず一時休止となった団体もあります。利用促進のために、団体の利用の無い日にはにぎわいで喫茶提供を可能な限り行いました。また、「にぎわいおひるごはんの日」として次年度からにぎわい交流館の自主事業としてもランチ提供を行える体制の準備を行いました。

マーケットは10月から1団体増えて6団体が利用しました。団体の都合でのお休みが多く、予定の3分の1程度の開催日数となりました。オールフォーユーはマーケット申請はあったものの、ランチと同時開催が難しく実際の利用はありませんでした。スマイルハウスは、にぎわいNEWSで特集を組んだ効果で、来館者との交流が活発になりました。

ギャラリーの開催回数は24回で、前年度より微増しました。布を使った大きな作品を展示される団体もあり、新しい団体の参加が目立ちました。来館者からの質問なども多く、サロンの活気につながっていると感じます。利用の無かった期間には、わいわいフェスティバルで展示された「平和の短冊」や、にぎわい文化部発表会の一環としてギャラリーも利用した俳句・絵手紙などの団体の展示を行いました。展示期間等のルールもすっかり浸透し、期間の半分で入替を行うなどアレンジして利用していただく場面もありました。

	ワンデイシェフ						ギャラリー		
	食数(食)			1日平均食数(食)			展示回数(回)		
	5年度	4年度	元年度	5年度	4年度	元年度	5年度	4年度	元年度
4月	285	135	1,187	19.0	27.0	45.7	2	2	2
5月	272	176	961	22.7	25.1	41.8	2	2	0
6月	206	134	1,098	25.8	26.8	42.2	2	2	3
7月	111	97	1,157	27.8	19.4	46.3	2	2	3
8月	103	53	969	20.6	13.3	46.1	3	3	3
9月	113		1,060	16.1		46.1	2	1	1
10月	266	289	1,122	38.0	24.1	46.8	2	2	1
11月	164	320	1,142	32.8	24.6	45.7	2	3	3
12月	208	140	811	41.6	23.3	47.7	2	1	2
1月	54	137	901	54.0	22.8	42.9	1	1	1
2月	90	184	955	45.0	23.0	41.5	2	2	4
3月	129	266		43.0	26.6		2	2	3
合計	2,001	1,931	11,363	32.2	23.3	44.7	24	23	26

### (3) 登録団体数について

にぎわい交流館の登録団体数は3月末時点で306団体であり、前年度末に比べて19件増加しました。新たに活動を始めた、既存の活動から発展した等の団体が13団体ありました。

新規登録団体の主たる活動分野は、「子ども健全育成」(8件)が最も多く、次いで「保健・医療・福祉」(5件)となりました。

(単位:件)

	新規登録	登録取消	差引増減	年度末団体数
令和元年度				322
令和2年度	10	3	7	329
令和3年度	17	78	-61	268
令和4年度	29	9	20	287
令和5年度	22	3	19	306

※令和4年8月に累計団体数の数え間違いが確認されたため修正しました。

### (4) 相談対応について

期間中に対応した相談は384件でした。相談の多かった前年度(370件)と比べて、さらに約4%上回りました。

相談者の内訳は、「登録団体」が40.6%で最多となりました。

相談内容の内訳は「施設利用・団体登録したい」が最多、次点が「講座や団体を探している」「館の運営・事業について」となりました。登録更新の作業や令和6年度からの会議室の利用変更や会議室での飲食についての相談が多く、麻雀がしたい、外国語を学びたい、日本語教室に行きたいなどの相談が目立ちました。地域や団体とつながりたいという相談も多く、大学生が団体や地域とつながるきっかけづくりのお手伝いなどもできました。本年度は「市の施策について」も多く、R6年度より改編されるくるりんばすについての問い合わせは、記録を残しているものだけでも6件ありました。日進市市民自治活動推進補助金の相談では、今年度はスタート支援のみだったこともあり、初めて補助金申請をする団体が9割となり、声かけから申請書の読み方書き方や企画内容まで丁寧に付き添う伴走支援として注力しました。記録までは行っていないものの、会議室やランチ・喫茶利用についての問い合わせも一年を通じて多くありました。

相談者の分類			相談内容の分類		
登録団体	156	40.6%	施設利用・団体登録したい	70	18.2%
市民	147	38.3%	講座や団体を探している	51	13.3%
未登録の団体	38	9.9%	館の運営・事業について	51	13.3%
行政・学校等	26	6.8%	団体について知りたい	37	9.6%
企業	15	3.9%	市の施策について	24	6.3%
社協	2	0.5%	その他	151	39.3%

※比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

## (5) 主な事業の進捗状況

### 【受託事業】

	事業名	日程	参加者数等
1	にぎわい NEWS (Vol. 26) (Vol. 27)	令和 5 年 9 月 令和 6 年 3 月	発行部数 各 2,000 部
	<p>市民活動に関心を持ってもらうため、市民向けの情報紙を発行した。当初の計画通り 2 回の発行。特集のインタビュー記事を中心に構成。写真を多用し見やすい紙面を心掛けた。地区回覧がないため団体の名刺代わりに配付していただいたり、おまつり出展時ににぎわい交流館の案内と共に配布するなど、少しでも見てもらえるよう心掛けた。Vol.27 は、第一次環境基本計画から 20 年の節目に、協働を具現化してきた市民活動団体の始まりから区切りの事例を紹介することができた。</p> <p>Vol. 26 人のつながりは宝 体験でつちかう力 山口朝子さん (NPO 法人スマイルハウス)</p> <p>Vol. 27 2024 年の子どもたちへ (にっしん市民環境ネット)</p>		
2	イベントカレンダー	月 1 回	発行部数 150 部
	<p>登録団体やにぎわい交流館が実施する一般向けのイベント情報を集約し、月 1 回市内公共施設に設置する。当初の計画通り発行。情報が少ないこともあり、空きスペースにランチ・マーケットの情報を掲載するなど工夫を試みたが、安定した開催とならなかったため片面での発行もあった。</p>		
3	にぎわい団体帖	令和 6 年 3 月発行	発行部数 20 部 ウェブサイトにも掲載
	<p>市民活動団体の認知度向上・市民活動への参加促進のため、にぎわい登録団体の情報を掲載した冊子を制作した。どんな団体があるか知りたい方には便利に利用していただけた。継続意向調査と合わせて団体に確認を行ったが、団体からの回答状況が芳しくなく、予定通りの進行とならなかった。この経験を踏まえて今後の更新や作成方法を検討する。</p>		
4	にっしんわいわいフェスティバル 実行委員会事務局	《令和 5 年度開催》 会議等 令和 5 年 4 月～8 月 開催 7 月 1 日 (土)	《令和 5 年度開催》 実行委員 5 人 (6 人から途中で 1 人減) 出展団体 75 団体 来場者 約 1,000 人
		《令和 6 年度開催》 実行委員募集 9 月 会議等 9 月～令和 6 年 3 月	《令和 6 年度開催》 実行委員 5 人 出展申込団体 85 団体
<p>SDGs の推進や市民活動の啓発、市民活動団体同士や大学生・地縁型団体・企業等との連携を図るため、市民主体の実行委員会形式でイベントを開催・運営した。実行委員会（全体会）の運営、出展団体の取りまとめ、経費精算をはじめとする諸業務を行った。当初の計画通り実施。わいわいフェス 2023 の実行委員会は前年より 2 人増え、より多様な視点を取り入れたイベントになった。開催目的は昨年同様、「わたしたち一人ひとりが『誰ひとり取り残さない』まちをつくるために、SDGs への理解をさらに深め、行動するキッカケをつ</p>			

	事業名	日程	参加者数等
	<p>くること」と定めた。出展者アンケートでは昨年より好評を得られた。</p> <p>わいフェス 2024 は、在り方を整理し、主催を市とし、市と実行委員会の協働開催となり、市民自治活動を推進・支援していくために開催するイベントと改めて位置づけ、実行委員や出展団体にも丁寧に説明を行った。わいフェスを作りあげる実行委員は前回から 3 人が続投、新たに 2 人が加わった。前年度の反省も踏まえてエントランスや企画の各部屋の活用を心掛けた。</p>		
	NPO 会計のイロハを学ぼう(団体向け講座)	令和 5 年 8 月 24 日(木)	会計講座・公開相談会：15 人(10 団体) 個別相談会：1 団体
5	<p>NPO における会計の必要性や具体的な方法を周知するため、税理士の中尾さゆり氏を講師に迎え、初心者向けの会計講座を実施した。直接声がけしたこともあり、団体立ち上げ期から関わってきた団体が多く参加した。公開質問会では積極的な発言が多かった。アンケート結果は満足度が高く、会計作業への意欲も見られ、充実した内容の講座を開催することができた。個別相談会を利用した団体は、講師に自分の団体の会計の課題を話すうちに、もっと根本的な課題に気づいた。相談会終了後に引き続きで相談を受けられるように、講師からの提案を受け、専門家相談コーディネーター事業の利用に初めてつながった。当初の計画通り実施。</p>		
	にしん市民まつり にぎわい交流館ブース	令和 5 年 11 月 19 日(日)	ブース出展 出展団体 14 団体 来場者 1,395 人 (出展団体からの報告の合計) にぎわい文化部発表会 出展団体 17 団体
8	<p>市民活動団体によるブース出展(屋外 13 ブース、ワンデイシェフ 1 団体)のほか、会議室 ABC と市民サロンでは「にぎわい文化部発表会」と題した企画を実施し、ステージ発表 7 団体、展示発表 10 団体の出展があった。また、にぎわい交流館によるドリンク販売を行った。ブース出展の来場者数はコロナ禍前(令和元年)の 8 割程度、販売金額も 7 割程度に回復した。出展団体の満足度はとても高く、当初の目的はおおむね達成できた。</p> <p>当初の計画にはなかったが、「にぎわい文化部発表会」を開催。団体の発表の機会が欲しい、わいフェスで俳句の団体が一緒に展示できると良い等、日頃の要望や相談での意見も踏まえ、文化系の団体に声かけし、音楽や団体活動の発表をする機会とした。発表した団体が互いに見学し、団体交流にもつながった。</p>		
9	日進のソーシャルグッドをつくる人(市民向け講座)	令和 6 年 2 月 17 日(土)	参加者数 18 人

	事業名	日程	参加者数等
	<p>社会課題を解決に導くためには、どんな人にも社会に目を向け自分達でまちをつくろうという気持ちを持ってもらうことが必要であり、そのような機運を醸成したいと考えた。そのため、にぎわい交流館の登録団体ではないが、自分が感じる社会課題に主体的に楽しく取り組んでいる人を講師に迎え、まちづくりや市民活動に対するイメージの変革を図り、まちづくりについて考え実践することを、生き方の一つの選択肢としてもらうことを目的とした。中学生から70代と言う多様な年代、にぎわいに始めてきたという人が4割の参加ということから新しい層にアプローチできた企画となった。自分が楽しんでできることからまちづくりにつなげられるということを知っていただけたと考える。</p>		
	団体交流会	令和5年8月26日(土)	参加者 26人(23団体)
10	<p>コロナ禍で交流の止まっていた団体同士が直接つながる交流会を開催した。当日の飛び入り参加も多く、参加者数は想定を超え目標を十分に達成できた。スタート時、つながりができるとよいと思われる団体を想定した配置にしたことで、関連した団体の交流が促進された。交流会後、団体専用事務室を長年利用していた団体同士が会話を交わすようになる場面も見られた。時間が足りなかったという声もあり、次回以降の課題としたい。継続意向調査や他の事業の告知もあり、当初の計画より時期を遅らせて実施。</p>		
	友好自治体フェア	令和5年8月 令和6年2月	
11	<p>友好自治体(木祖村、志摩市)との連携、ワンデイシェフの利用促進、来館者増加が目的。ランチフェアが可能であれば検討したかったが、ワンデイシェフの担当日が少ないこともあり開催はできなかった。木祖村フェアは市民協働課によって、にぎわい交流館でのギャラリー展示と会議室を利用した木祖村野菜産直フェアが実施された。志摩市観光協会との産直フェアはなかったが、市民協働課によるギャラリー展示が開催された。</p>		

#### 【自主事業】

	事業名	日程	参加者数等
	事業報告・説明会(団体交流会と共に実施)	令和5年8月26日(土)	参加者 26人(23団体)
1	<p>登録団体に対して、にぎわい交流館の前年度の事業成果について報告するとともに、本年度の事業計画について説明することにより、にぎわい交流館への理解を深めてもらう機会として団体交流会の前に実施した。コロナ禍の始まりから館長・副館長が交替し、運営体制が変わったことも改めて団体に伝える機会となった。</p>		
	お子様弁当無償提供事業等に関する登録団体のサロン棚利用	令和5年8月(1日間)	利用団体 1団体
2		令和5年12月 ～令和6年1月(2日間)	利用団体 2団体
		令和6年3月～4月(4日間)	利用団体 2団体



	事業名	日程	参加者数等
	全国チェーンの飲食店が無償提供する弁当を子育て家庭に配布するため、「にぎわいマーケット」の行為許可に準じて、市民サロンの棚を貸し出した。マーケットの出店がある際にも利用希望があったため、時間帯や館内配布場所の変更など団体のニーズに合わせて柔軟に対応し実施した。		
	にぎわい夢まつり	令和5年9月17日(日)	出展団体 9団体 ブース来場者 1,226人 (出展団体からの報告の合計)
3	市民活動団体によるブース出展(7ブース8団体)のほか、日進絆子ども食堂による飲食提供(アジパンダ食堂)、にぎわい交流館によるドリンク販売を行った。感染症対策等の規制のない開催となり、来場者は去年の2倍、販売金額は1.5倍と好調な結果となった。出展団体の満足度もかなり高く、当初の目的はある程度達成できた。味の素株式会社の社会貢献としての取り組み「アジパンダ食堂」(現在は実証実験段階)に日進絆子ども食堂が協力し、にぎわい交流館はその連絡調整を行った。		
	広報お悩み座談会 ホームページを考える	令和6年2月23日(金・祝)	参加者数 8人(8団体) 個別相談 1人(1団体)
4	日々の業務の中で、ウェブサイトの運営が団体の課題であることが多いと感じたため、当初の計画にはなかったが実施した。団体同士が互いに悩みを聞くことで課題が明確になり、利用者の目線を考えた情報発信や広報のヒントや課題解決のきっかけを得ることができると考えた。参加者からは積極的な発言が多く、自分の団体の現状を知り、課題が明確化したことがうかがえた。また、ウェブサイトという共通ツールについて話し合うことで、普段かかわりのない他ジャンルの団体と和やかな交流が生まれた。		

#### その他特記事項

- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンターと打ち合わせ……月1回を目安に、10回実施。
- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会参加……2回
- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンター事業への参加……4回  
(部会参加、東尾張ブロックボランティア集会、にしん支え合い円卓会議、登録説明会等)
- 子どもの支援を考える会……12/7「子ども食堂・フードパントリーをはじめよう！」講演会参加、補助金等案内の周知協力。
- にしん観光まちづくり協会理事会参加……3回(総会、理事会2回)
- わたしのまちのしあわせづくり委員会参加……2回
- 環境課……エコモビ推進キャンペーンに協力
- 防災交通課移動政策室……トートバッグ・のりものカードの配布及びにしんTVの広報協力
- 愛知淑徳大学CCC……コラボメッセに参加
- 公益財団法人とよしん育英財団表彰……3団体を推薦
- 菓子製造業許可の取得
- 愛知学院大学リサーチプロジェクトへの協力……講義等
- 愛知県災害中間支援組織設立に向けた協力団体調査への説明会参加と調査協力
- NPO法25周年記念フォーラム、市民セクター全国会議、「市民セクター全国会議2023」を振り返る会への参加
- 愛知県社会活動推進課NPOグループ……「NPOと行政の協働に関する調査」への協力
- 中日青葉学園……青葉まつりへ参加、企業から寄付された水の配布協力
- 第二次環境基本計画策定委員会傍聴
- 生ごみ処理機(環境課)モニター設置

- 愛知県ユニセフ協会 1 周年記念イベントへ参加
- 日進市新規採用職員研修……講師として参加
- 三好高校……総合的な探求の時間での講義と受け入れ計 2 日間
- 職場体験……日進西中学校・北中学校の受け入れ計 4 日間
- 日進市市民自治活動推進補助金の成果報告会・募集説明会へ職場体験の中学生と参加
- にぎわいおひるごはんの日（自主事業）……ワンデイシェフや弁当販売の実施がない日に、にぎわい交流館によるランチ販売を行う。1 月 18 日に試行。わいフェス実行委員・三好高校・職場体験参加者へ提供した。
- USEN 設置

## 2. 令和 6 年度にぎわい交流館運営計画について

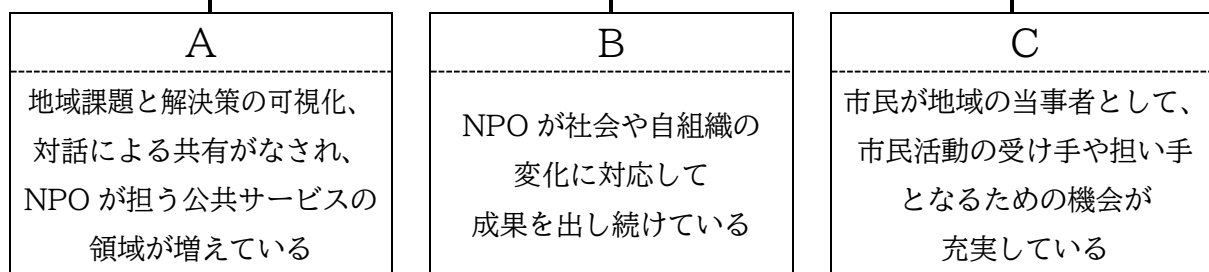
### (1) ビジョンと長期成果

運営の指針として平成 29 年度から掲げてきたビジョンについて、令和 4 年度に小幅の見直しを加えて使用しています。使用期間は第 6 次日進市総合計画（以下「6 次総」）の中間目標年に合わせ、令和 7（2025）年度までです。

ビジョン（まちの将来像）

市民・行政・NPO・事業者が効果的に連携しながら、  
地域課題の解決に取り組むしくみができている

長期成果



	長期成果に対する 数値目標 (R6 年度)	直近の実績	6 次総 2025 年の 目標値等	所感
A	行政と NPO の 協働事業件数 120 件	91 件 (R2) 99 件 (R3) 116 件 (R4)	108 件	協働事業件数は順調に増加。今後も、 新たな協働を創出する環境づくりに 努めたい。
B	にぎわい交流館 登録団体数 300 団体	306 団体 (R6 年 3 月)	327 団体	高齢化などにより活動を止める団 体もあるが、新規登録も多く、全体 では増加傾向にある。令和 5 年度 末で継続意向のない団体は 48 件。 コロナ禍の前回更新時には 70 件、 それ以前の更新時には 56 件と 増減としては想定の通りだった。
C	ボランティア・NPO 活動への参加経験の ある市民の割合 17%※	14.7% (H30) 15.2% (R2) 15.6% (R4)	20%	寄せられる相談からも、ボランテ ィアに参加意欲のある市民が増えて きている印象がある。今後も情 報発信に努めたい。 ※ 2 年に一度の市民意識調査での計測 を継続する。

## (2) 受託事業および自主事業

分類	事業名	受託／自主
施設管理・ 利用許可等	会議室、印刷機、団体専用事務室等の利用許可、団体登録 調理室・ワンデイシェフ、マーケット ギャラリー 施設管理（清掃、警備、植栽管理など） 人権・男女共同参画情報スペースの管理	受託事業
	(1) 喫茶提供、にぎわいドリンク にぎわいおひるごはんの日	自主事業
相談窓口	(2) 相談対応	受託事業
	事務支援事業（消耗品販売、名刺作成、データ印刷等）	自主事業
情報収集 および発信	(3) 市民活動、大学・学生団体に関するチラシ等の受付、配架 団体書庫、図書等収集・配架 にぎわいNEWS（2回） 広報につきん記事制作（1回） (4) にぎわい団体帖（1回） (5) ウェブサイト（リニューアル） SNS運用（Facebook、Instagram、LINE公式アカウント、 X（旧Twitter）等） (6) メールマガジン イベントカレンダー（月1回） チラシ配送（市民自治活動奨励事業認定制度） キャラクター「わいわい」を利用したPR	受託事業
講座・ イベント等	(7) わいわいフェスティバル実行委員会事務局 (8) 団体支援事業 (9) 市民活動啓発事業 (10) 団体交流会 (11) につきん市民まつり（にぎわい交流館ブース） 友好自治体に関する情報収集・PR	受託事業
	(12) にぎわい夢まつり	自主事業
	(13) にぎわい夜桜の日	
会議等への参 加、関係機関 との連携	につきん観光まちづくり協会理事会 日進市ボランティアセンター運営委員会（社会福祉協議会） 子どもの支援を考える会（社会福祉協議会） わたしのまちのしあわせづくり委員会 日進市ボランティアセンター（社会福祉協議会）、日進市社会 福祉協議会 CSW、市民協働課自治振興係、大学のボランティ アセンター等との定期または不定期の情報交換	受託事業

※番号のある事業は、次ページ以降に説明があります。

	事業名	実施回数等	受託／自主	対応する長期成果
(1)	にぎわいおひるごはんの日	通年	自主事業	
	ワンデイシェフが少ないため、実施がない日に、にぎわい交流館スタッフによる手作りのランチを販売する。食材に登録団体が育てた野菜を使ったり、日頃から弁当販売等をしている登録団体の惣菜を添えたり、無理のない範囲で団体にも協力を仰ぎながら進め、団体支援や市民活動啓発の場にもする。			
(2)	相談対応	通年	受託事業	B
	市民や団体の相談を受け、助言や提案を行う。必要に応じて他団体・関係機関とのマッチングを行う。相談の内容により、専門家への相談につなげる。			
(3)	にぎわい NEWS	年 2 回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアに関心を持ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、市民向けの情報紙を制作する。各号のテーマは、活動分野やターゲットとなる層のバランスを考慮して選定する。継続。			
(4)	にぎわい団体帖	1 回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアの団体を知ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、団体の情報を掲載した冊子を制作（情報更新）する。継続。			
(5)	ウェブサイト（リニューアル）	通年	受託事業	C
	スマートフォンでの閲覧や、市民の関心事項にアクセスしやすいウェブサイトを目指し、リニューアルを行う。登録団体やイベント、館内のワンデイシェフ・ギャラリー・マーケットなどの情報を記載する。全面的に更新。			
(6)	イベントカレンダー	月 1 回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアに関心を持ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、収集したイベント情報をカレンダー形式で制作する。市内の公共施設にも配架する。効果的な周知方法を検討しながら継続。			
(7)	わいわいフェスティバル 実行委員会事務局	通年（7月6日（土）開催）	受託事業	C
	主催を市とし、市と実行委員会の協働開催となり、市民自治活動を推進・支援していくために開催するイベントと改めて位置づけられたわいわいフェスティバル。事務局として、会議の設計・進行、出展団体募集の受付、パンフレット作成、市との連絡調整など、運営のための事務を行う。出展団体(テーマ型団体、地縁型団体、大学・学校、企業、行政)間の交流・連携を図る。前年度から、より市民活動が伝わる形式を模索し発展させた形態を提案、同規模で実施予定。継続。			
(8)	団体支援事業	1 回～	受託事業	A・B

	事業名	実施回数等	受託／自主	対応する 長期成果
	団体のニーズに沿った講座やイベントの企画や、団体間の交流やネットワークづくりの支援をする。「地域円卓会議」に類した市民活動の課題解決や目標にむけての取組を支援する交流会、個人情報保護講座などを検討中。			
(9)	市民活動啓発事業	1回	受託事業	C
	若者やにぎわい交流館に来館したことがない市民にアプローチする企画を行い、市民活動の裾野を広げ活動の多様性を創出する。「日進のソーシャルグッドをつくるひと」の第2弾や、定期的集える企画など、若年層をターゲットとした講座を検討中。			
(10)	団体交流会	1回（夏頃を予定）	受託事業	A
	団体間の交流とネットワークづくりの支援として参加団体の近況報告、情報交換を行う。合わせて、にぎわい交流館からの事業報告・事業説明を行い、にぎわい交流館の運営や事業について意見交換や参加の呼びかけを行う。			
(11)	にっしん市民まつり（にぎわい交流館ブース）	1回（11月）	受託事業	C
	にっしん市民まつりの一環で開催し、団体が活動紹介したり資金調達したりする機会を設ける。継続。			
(12)	にぎわい夢まつり	1回（9月）	自主事業	C
	にっしん夢まつりに合わせて、団体が活動紹介したり資金調達したりする機会を設ける。継続。			
(13)	にぎわい夜桜会	1回（4月6日（土）実施）	自主事業	C
	にぎわい交流館の利用を促進する目的で実施。新規。シンボルツリーを飾り、避難所パーテーションを利用した栈敷席を設置した。また、提灯の作成や喫茶提供を行った。夜桜鑑賞やワークショップに20名が参加、憩いの場として楽しんでいただけた。団体からの自発的なボランティア参加もあり新規団体の交流の場ともなった。			